

平成27年1月8日(木)

老球の細道100号

何事も100回

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

昔から100という数字にはこだわりがある。中学生の頃、腕立て伏せと腹筋(上体起こし)を100回できることが私の「男の証明」だった。毎日少しずつ練習したらいつのまにかできるようになった。100回できるようになったら身体も変わった。それからは何事も100回くらいやれば、できないこともできるようになると信じるようになった。

ある本にこんなことが書いてあった。

「続けることができたこと、できなかったことを比べてみて気づくことがある。それは、続けることの効用や楽しさは、初めのうちはわからないということ。3ヶ月、半年と日を重ねるうちに、だんだんそれがわかってくる。そうすると途中でやめてしまうのがもったいなくなる。それまで続けることができるかどうかが問題だ。無理をせず、たとえ少しずつでも寸暇をさいて続けること。惰性で続けることは簡単であるが、あまり自分のためにはならない。意識して続けるということが自分自身の成長のコヤシになっていく」

『老(籠)球の細道』もなんとなく書き始めたら100号になってしまった。書いているうちに色々な人から「読んでますよ」と声をかけられ「ヨイショ」されてしまった。ヨイショされたら最後、100号までいかなければ男じゃない。私も豚と同じで、おだてられるとのぼせ上がってしまう。100号も書いて何を伝えたかったのか。色々な話題を通じて何を言いたかったのか。つまるところ、それは次の三つである。

一つは、バスケットボールのすばらしさ。『馬好謙強友(バスケット)』。

馬・・・馬鹿になって励め。凡人の戦い方は愚直一途。

好・・・好きこそものの上手なれ。好きなことで長所を作り、強みにして自信を持つ。

謙・・・謙虚な心態度に大きな夢。世界は広い、上には上がいるが目指すは超一流。

強・・・日々の鍛練で強い心と体を作り、人生のハードルと葛藤を乗り越える。

友・・・友と共に勝利の喜び、敗北の屈辱を共有する。バスケットの友は一生の友。

二つは、『青春の5かけ』。

汗をかけ・・・行動しよう。努力しよう。トライしよう。チャレンジしよう。

恥をかけ・・・他人の眼を意識しないで自分を出そう。失敗を恐れるな。

頭をかけ・・・勉強しよう。広い教養を持とう。

夢をえがけ・・・寝ても覚めても夢を見よう。夢は大きな心を作る栄養だ。

書いて、書いて、かけ・・・考え、思いを文章にすることで心を使い考えを整理する。

三つは、『人生の四つの意』。

熱意・・・まず燃えよ燃えないとき火を誰が囲もうか。前例のないことをやる意欲と平凡を嫌うこと。

誠意・・・何事も心を込めて真摯に取り組むことが信頼を得る永遠の法則。ものごとや相手を大切にする。

創意・・・困難、逆境は創意工夫で乗り越える。ありきたりで満足するな。

室意・・・「俺は室井だ文句あるか」。自分をさらけ出す。出る杭は打たれるが、出過ぎた杭は打ちようがない。引っ込んだ杭は腐ってしまい悔(杭)が残る。